



おいしさのみなもと
FEED ONE

～飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける～

東京証券取引所 プライム市場
(証券コード 2060)



2025年12月9日(火)
個人投資家向け会社説明会

スクリプト記事はこちら
※QRはリンクにもなっております



CONTENTS

- 01 会社概要
- 02 マーケットの展望と長期ビジョン
- 03 事業紹介
- 04 人的資本投資／地域貢献活動
- 05 株主還元方針

本日のスピーカー



取締役
常務執行役員

窪田 和男

今回初めてフィード・ワンという会社を耳にした方も多いのではないでしょうか
実は皆さまの毎日の食卓に欠かせない事業を展開しておりますので、今回の説明会をきっかけに是非応援していただくと幸いです

会社概要



会社名		フィード・ワン株式会社
所在地		神奈川県横浜市西区みなとみらい五丁目1番2号
代表		庄司 英洋
設立		2014年10月1日
資本金		100億円
従業員		925名(2025年3月31日現在/連結)
筆頭株主		三井物産株式会社
事業		配合飼料の製造・販売、畜水産物の仕入・販売・生産・加工等 上記に付帯関連するその他事業(農場の経営指導、家畜診療施設の運営等)



代表取締役社長

庄司 英洋

PURPOSE(企業理念)

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける



配合飼料の製造・販売から農場・食品まで事業領域とし、日本の「おいしさのみなもと」を創造します



グループ会社

販売会社

7社

北海道フィードワン販売(株)
鹿島フィードワン販売(株)

東北フィードワン販売(株)
北九州フィードワン販売(株) etc

製造会社

7社

志布志飼料(株)
仙台飼料(株)

釧路飼料(株)
鹿島飼料(株) etc

農場会社

4社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)南部ファーム

(株)第一原種農場
(株)美保野ポーク

食品会社

4社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)

ゴールドエッグ(株)
(株)横浜ミート

その他

5社

KYODO SOJITZ FEED
COMPANY LIMITED
南洋漁業(株)

NIPPAI SHALIMAR
FEEDS PRIVATE LIMITED
門司港サイロ(株) etc


子会社 **16社** 関連会社 **11社**

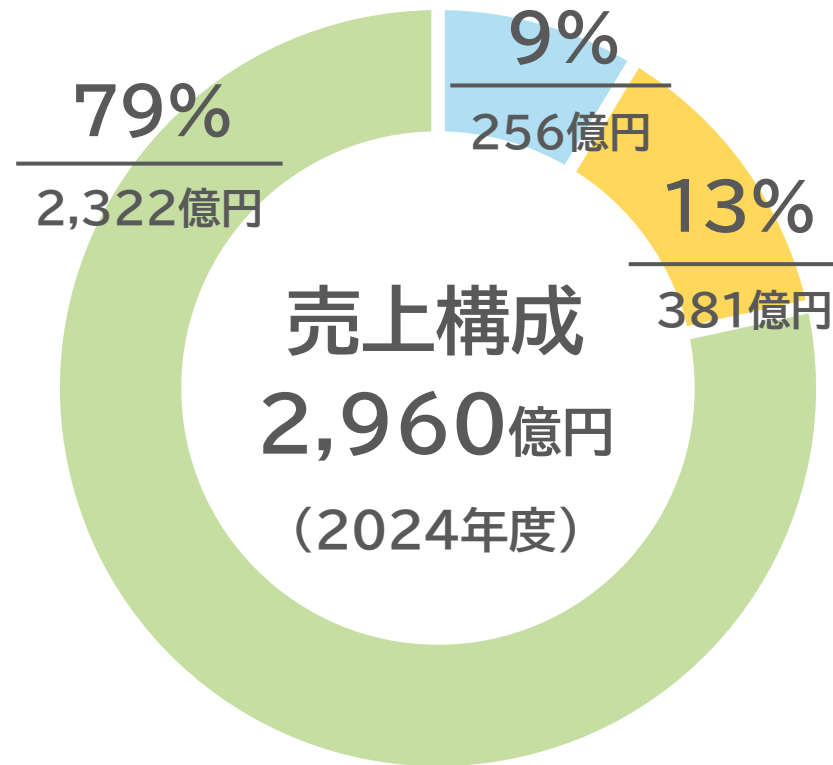
※2025年12月時点




セグメントの状況

畜産飼料事業をコアとし、水産飼料事業、食品事業で構成しています

畜産飼料事業 
養鶏、養豚、養牛用飼料の
製造・販売



水産飼料事業 
養殖魚用飼料の
製造・販売

食品事業 
豚肉と鶏卵の
仕入・加工・販売



フィード・ワンの事業領域は食の川上から川下まで網羅しています

バリューチェーンにおけるフィード・ワンの取り組みとSDGsとの関連性

正の影響の強化 負の影響の最小化



原料

製造

生産者

食品

消費者

配合飼料の原料の約8割は商社を介して海外から輸入しています

全国に14の工場を有しており、全国の畜産農家、養殖業者への安定供給を果たしています

配合飼料の提供に留まらず、飼養管理技術や環境負荷低減技術等も提供します

川上を網羅していることでトレーサビリティが取れている畜水産物を提供することができます

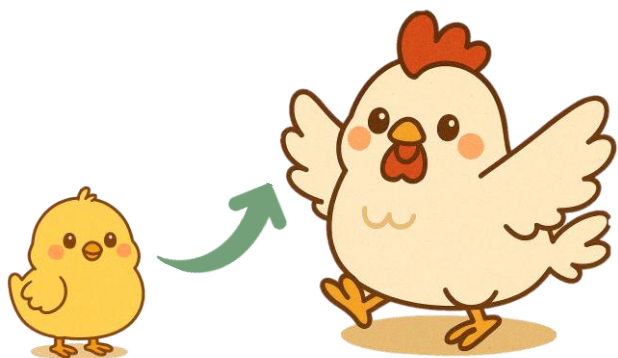
フィード・ワンは原料の調達から畜水産物の販売まで網羅し、日本の食卓の安心安全を支えています



What is 配合飼料？

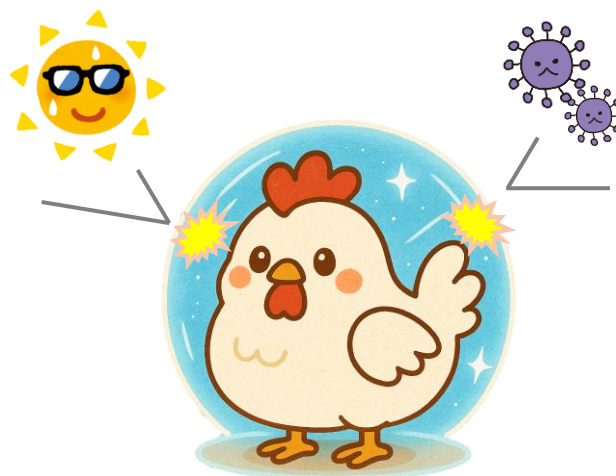
「ただ育てるだけ」の役割は昔の話。今は飼料が家畜の健康や畜水産物の品質も左右します

家畜を大きくする



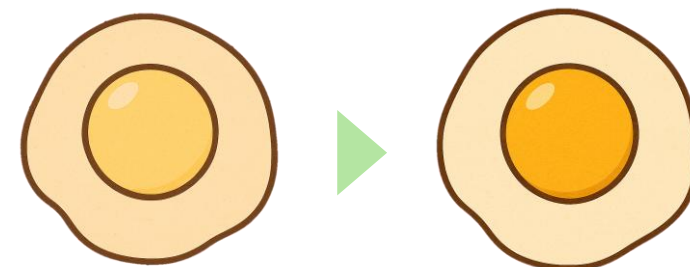
成長段階に応じた栄養設計により効率的に育てます。鶏(3kg)は出荷までに約6kgの配合飼料を与えます

家畜の健康を維持する



夏の暑さ等の気候変動や鳥インフルエンザ等の病気は生産性を悪化させます
配合飼料が家畜の健康を支えています

畜産物の価値を向上する



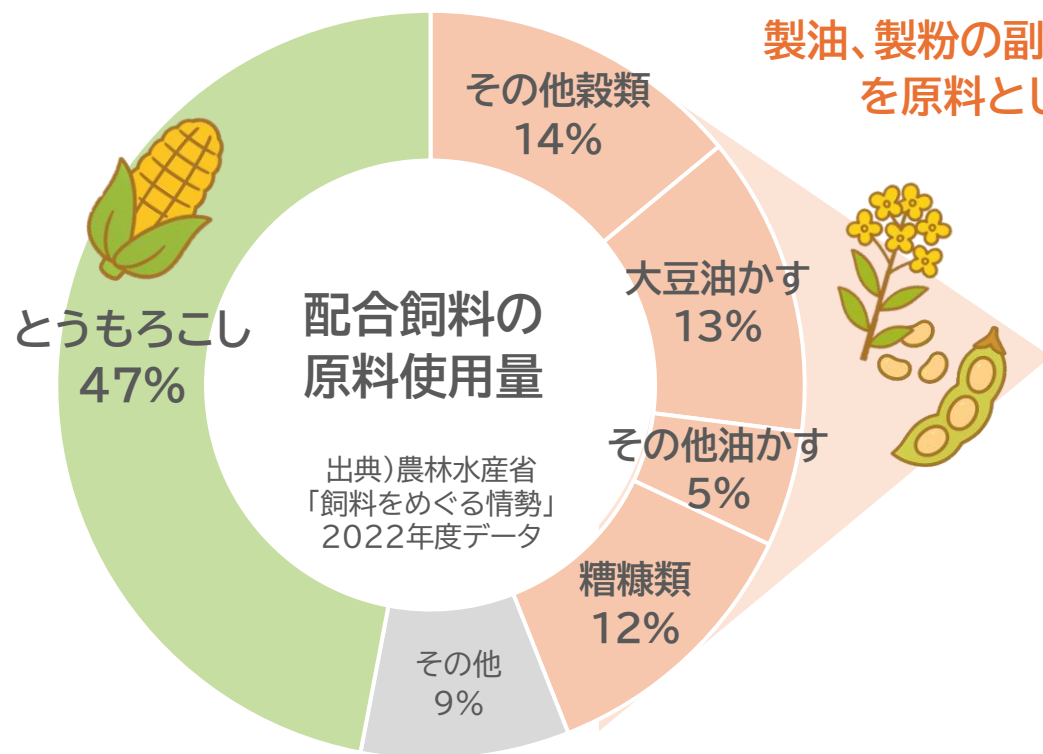
卵の黄身の色やサーモンの色は配合飼料の原料(パプリカ等)由来の色となっています
配合飼料は畜水産物の価値向上に貢献します



What is 配合飼料？

配合飼料の主原料である、とうもろこし等は海外から輸入しています

副原料として食品副産物や食品ロスを利用するため、**食品リサイクルループ**の要となっています



製油、製粉の副産物(絞りかす)を原料として利用



三井物産の「調達力」とフィード・ワンの「販売力」で、サステナブルな畜産業を実現しています



MITSUI & CO.

穀物取扱数量
民間企業No.1

関係会社



原料を安定供給
(量・価格・タイミング)



取扱数量増



FEED ONE

飼料販売数量
民間企業No.1

パートナー



飼料を安定供給
(量・価格・品質)



FOの飼料需要増



世界が認める
日本産畜産物



日本配合飼料

日本配合飼料株式会社 設立

養魚用飼料に進出

東京証券取引所市場第一部に上場

1929

1946

1960

1967

1969

2014

フィード・ワンホールディングス株式会社 設立

日本配合飼料と協同飼料の完全親会社

2015

おいしさのみなもと

 FEED ONE

フィード・ワン株式会社 設立

日本配合飼料と協同飼料を吸収し完全統合

協同飼料

協同飼料株式会社 設立

畜産物の生産・加工販売を開始

東京証券取引所市場第一部に上場

フィード・ワン株式会社 設立



2015

当社

関係会社

北九州水産工場 竣工

2017

北九州畜産工場 竣工

2020

養牛設備移転、畜産研究所集約を決定

(2027年度稼働予定)

愛知県豊川市

水産飼料新工場 建設を決定

(2028年度稼働予定)

フィード・ワンの食肉事業と関係会社2社を統合し
フィード・ワンフーズ株式会社 設立

東日本マジックパールと西日本マジックパールを統合し
マジックパール株式会社 設立

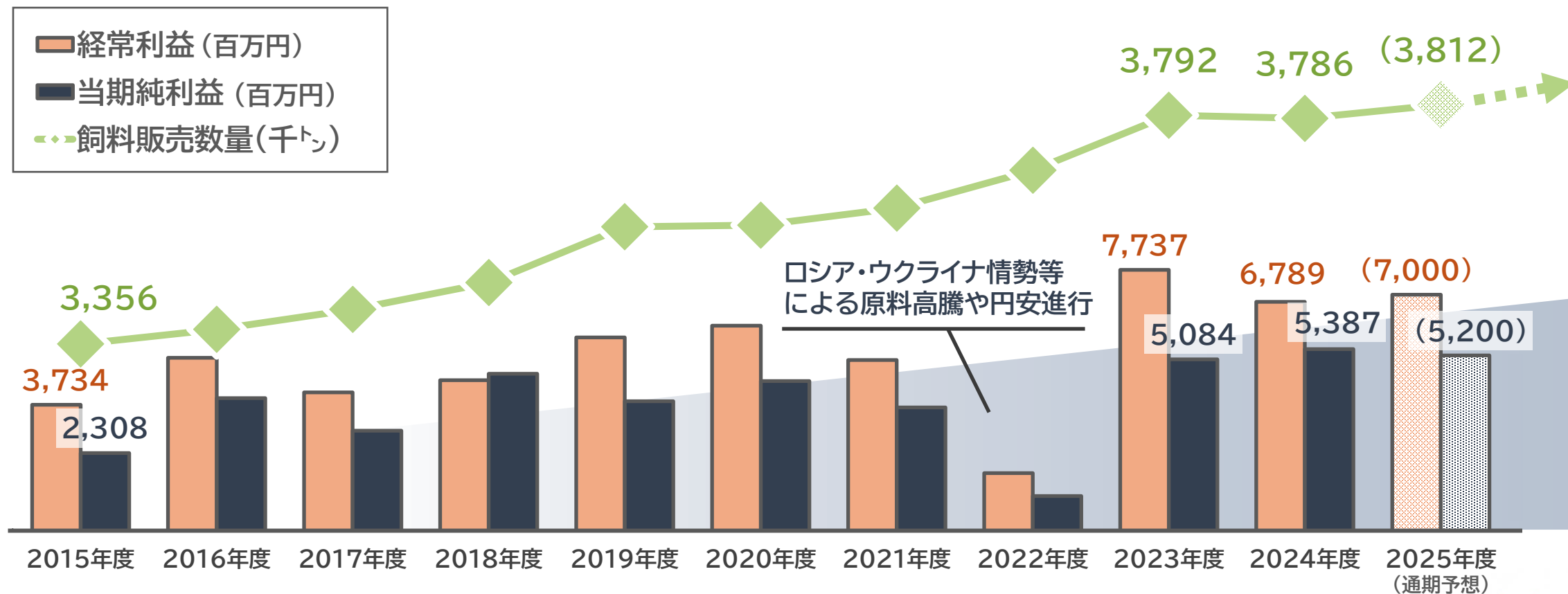
マジックパール株式会社 新工場 竣工

販売子会社4社を2社に合併

- ・八戸フィードワン販売と岩手フィードワン販売を統合して東北フィードワン販売に
- ・鹿島フィードワン販売が東海フィードワン販売を吸収合併



統合後順調に利益を拡大し、2024年度は当期純利益が過去最高益となりました



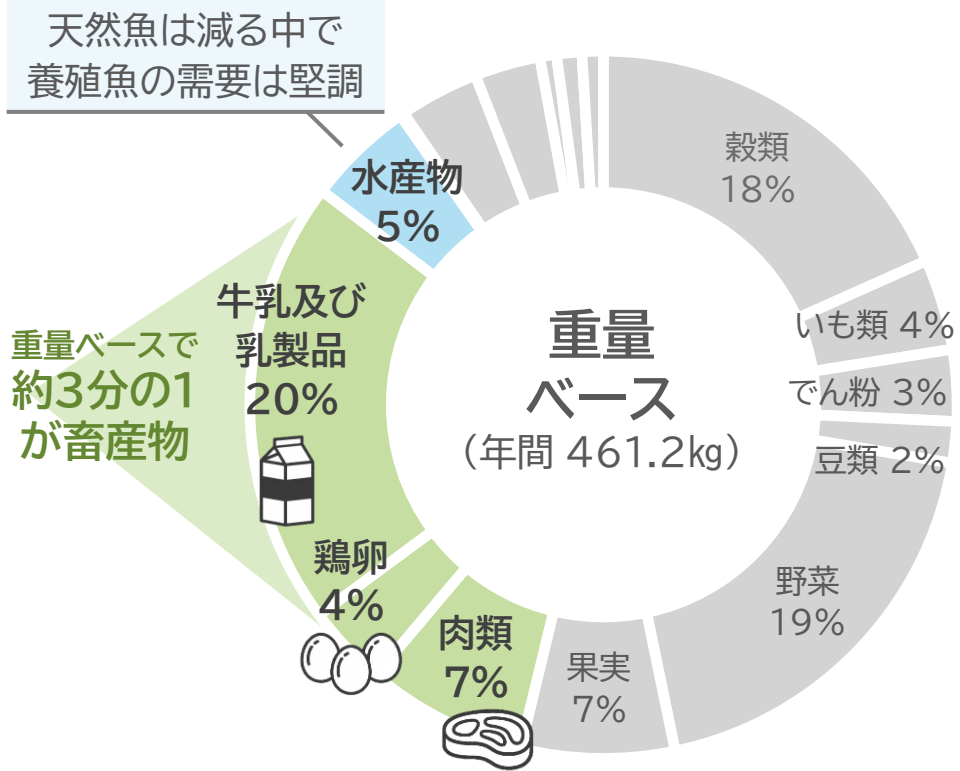
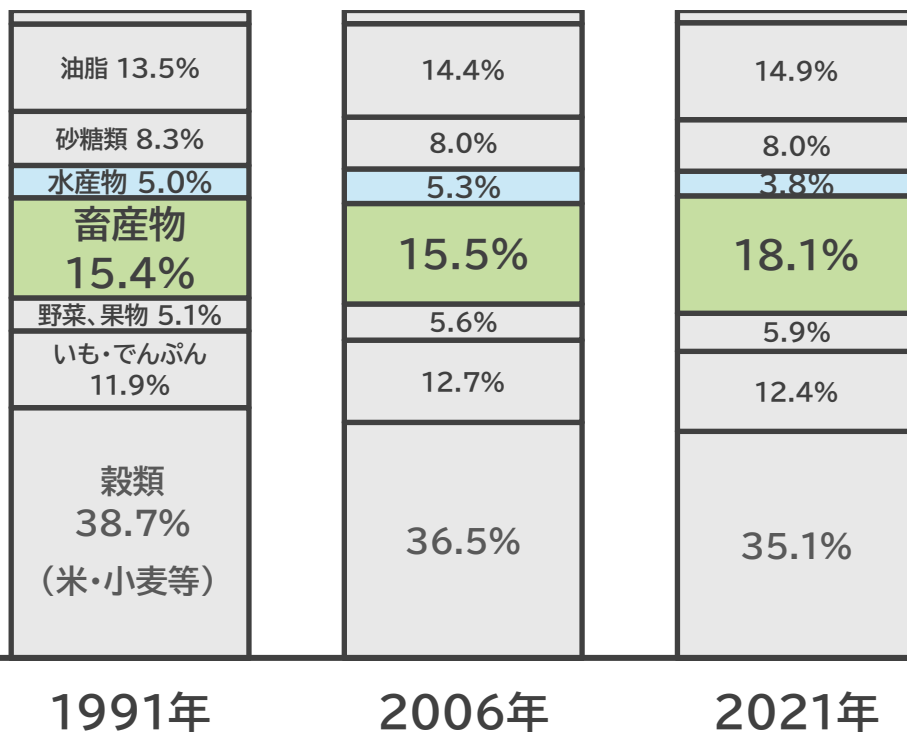
CONTENTS

- 01 会社概要
- 02 マーケットの展望と長期ビジョン
- 03 事業紹介
- 04 人的資本投資／地域貢献活動
- 05 株主還元方針

日本の畜水産物需要の推移

穀類(主に米・小麦等)の需要は減少する中、畜産物需要は肉類や乳製品を筆頭に増加しています

カロリーベース
(日本人ひとり当たり)

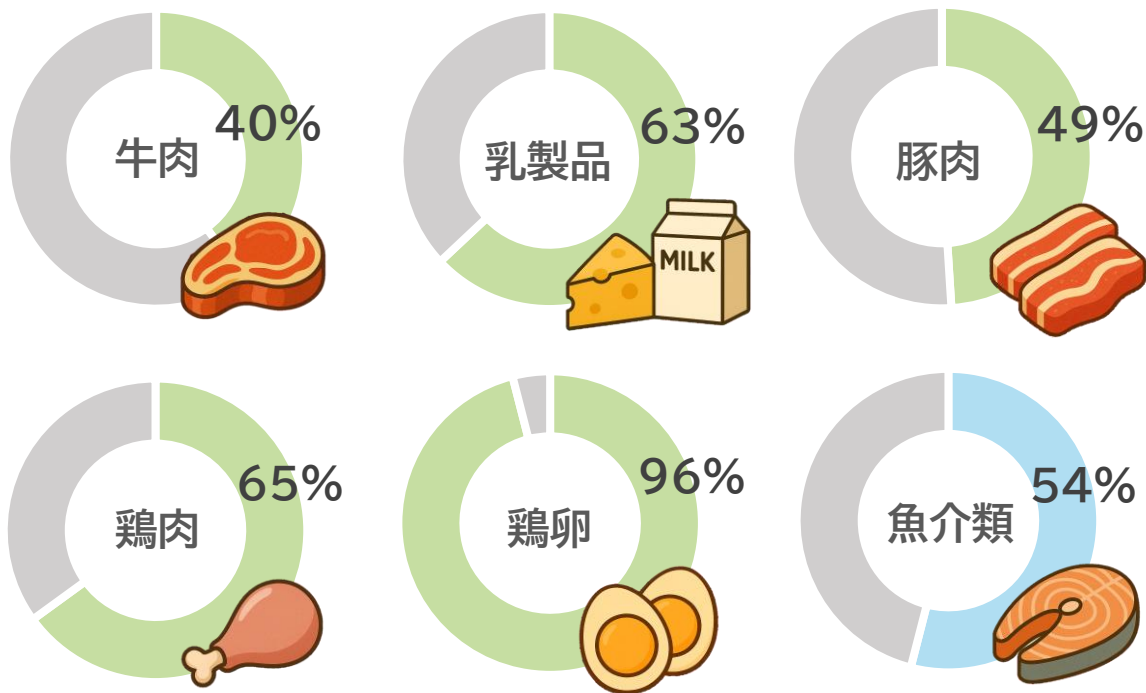


出典)農林水産省「食料需給表」



畜水産物の多くは輸入に依存するも、先行きの不透明さから国産需要が拡大する見込みです

■ 自給率 ■ 輸入



出典)農林水産省「畜産・酪農をめぐる情勢(令和7年7月)」

畜水産物の多くは輸入依存も

世界人口増加による消費増加 円安等の地政学リスク 家畜疾病による輸入規制

による輸入畜水産物の調達懸念

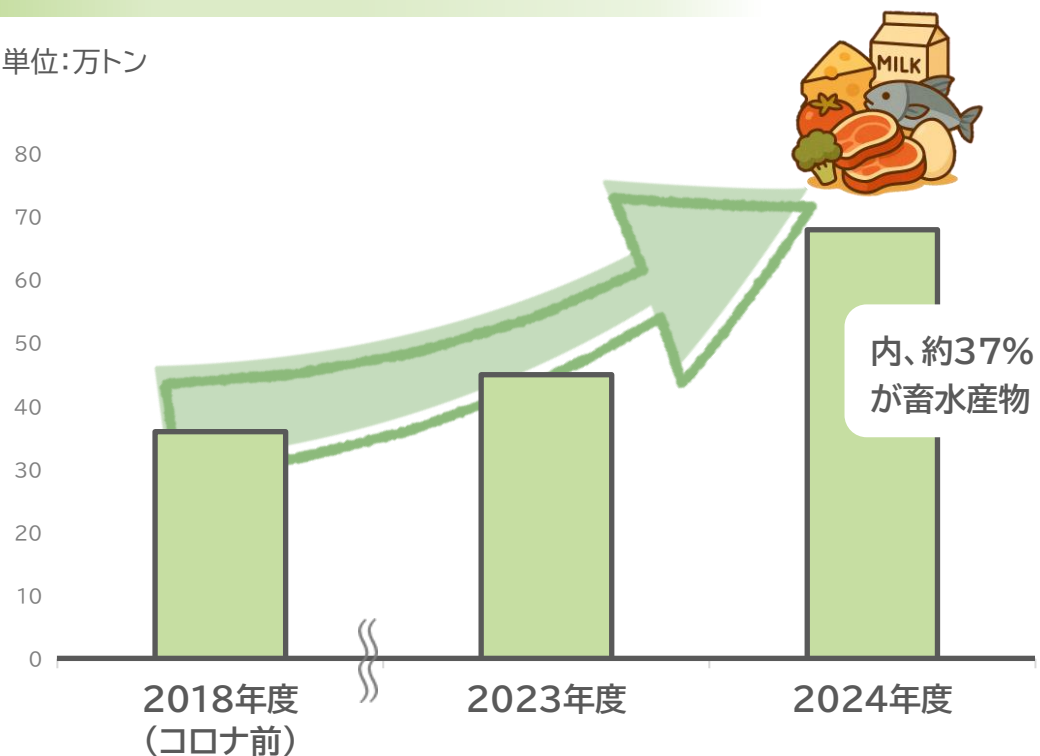
国産畜水産物需要拡大



インバウンド需要の高まりとともに、牛肉や養殖ブリの輸出等から国産畜水産物が注目されています

農水産物のインバウンド需要

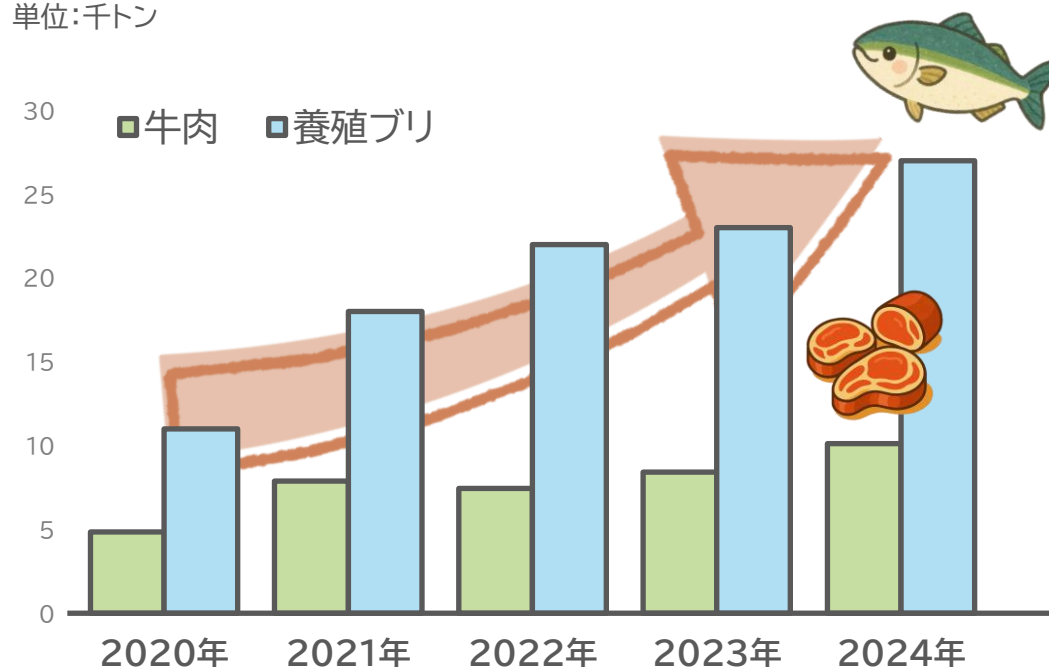
単位:万トン



出典)農林中金研究所「インバウンド農水産物消費の量的インパクト」

畜水産物の輸出

単位:千トン



出典)財務省「貿易統計」/水産庁「養殖ブリの生産・輸出の動向について」



飼料の安定供給という使命のもと、社会の要請に応える製品を創出し、企業価値を向上します

第2フェーズ - 2024~2033年度 -

～継続的収益力の強化と生産体制の刷新・増強～

統合による
事業基盤の確立

第1フェーズ
2015~2023年度

1stステージ
2024~2026年度

EBITDA 115億円
ROE 8%以上
ROIC 6%以上

(2026年度計画)

2ndステージ
2027~2029年度

(2024~2029年度)

3rdステージ
2030~2032年度

(2024~2033年度)

総投資額600億円

総投資額800億円

2033年度

畜産飼料市場シェア

販売数量 20%以上

EBITDA 160億円以上

ROE 10%以上

ROIC 8%以上

EBITDA※

61億円→112億円
(2015年度) (2023年度)

販売数量

336万ト→379万ト
(2015年度) (2023年度)

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費

拡大期待のあるマーケットに対応するため、積極的投資を行い、競争優位性を高め、利益を拡大します

内外環境

設備の老朽化

国内飼料メーカー共通の課題
築年数50年超の工場が点在
消耗した設備による製造効率の悪化
等が課題

暑熱や家畜疾病

暑熱による飼料摂取量の低下や繁殖
能力低下等により、生産性悪化や飼
養頭羽数が減少
競争激化やニーズの高度化へ

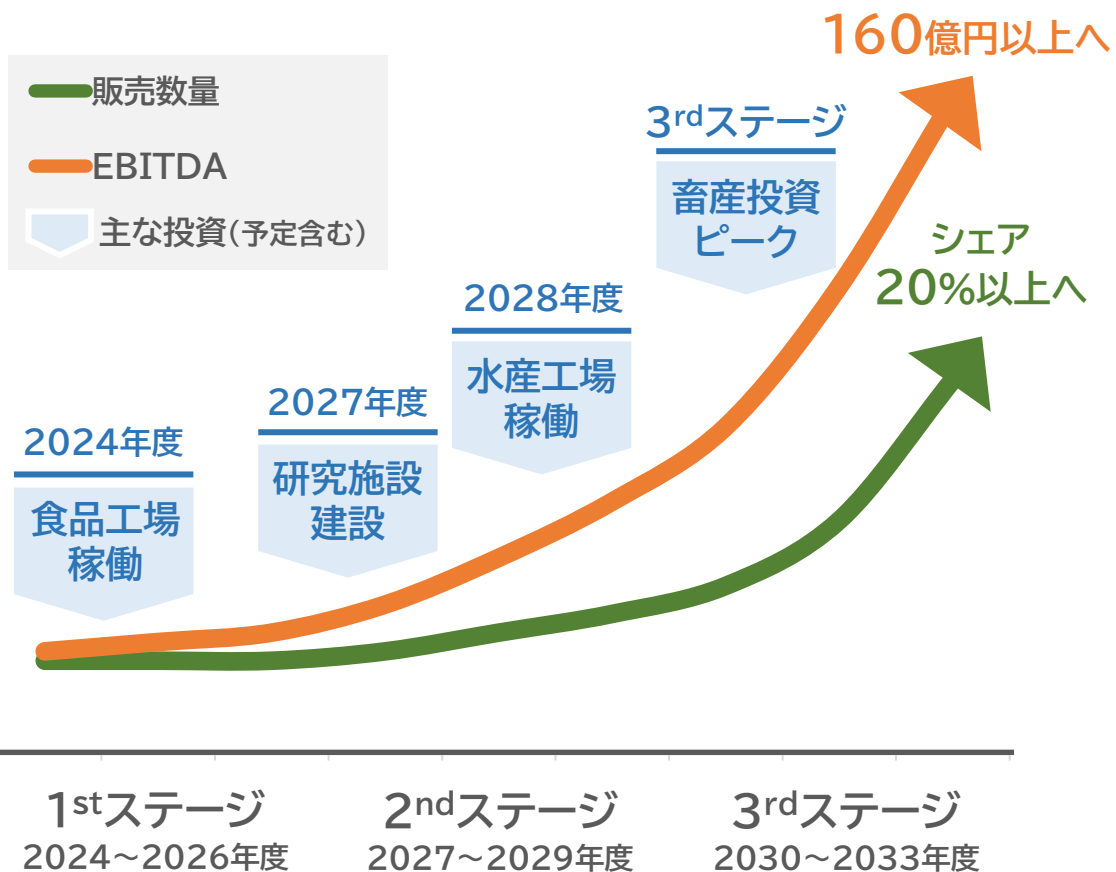
製造キャパ逼迫

第1フェーズでは市場が横ばいの中、
約40万トンの販売を伸長し、製造キャパ
が逼迫

収益力強化に向けた取り組み

	1st ステージ	2nd ステージ	3rd ステージ
積極的投資 飼料工場や研究開発 を中心とした投資 生産体制を刷新・増強	継続した畜産飼料投資 2024年度 食品工場 稼働		マーケット拡大エリア への大型投資 等 2028年度 水産新工場 稼働
製造の効率化 製造品目の削減等による 製造数量の底上	2026年度 畜産飼料 小ロット製品の削減 等 水産飼料 50%削減 (2022年度対比※) ※品目削減取組開始年次		
他社との差別化 最先端技術の活用 研究開発力の強化 継続取組み	2027年度 研究施設 建設 例)暑熱対策、育種改良対応、無魚粉 等	
採算管理の徹底 収益構造の改革 有利原料の活用 等 継続取組み	例)不採算販売見直し、昆虫タンパク原料の採用	

2ndステージまでは競争優位性や収益の強化を進め、3rdステージから成長スピードを加速します



販売数量

1st~2ndステージは製造の効率化により微増。3rdステージより拡大

EBITDA

基礎収益力アップと、販売数量の拡大をもって増加

設備投資

3rdステージにかけ畜産飼料への投資を行い、販売数量拡大を図る
支払は期間分散するため、投資資金の大半は営業CFで賄える



CONTENTS

01 会社概要

02 マーケットの展望と長期ビジョン

03 事業紹介

- ▶ 畜産飼料事業
- ▶ 水産飼料事業
- ▶ 食品事業

04 人的資本投資／地域貢献活動

05 株主還元方針



畜産飼料事業

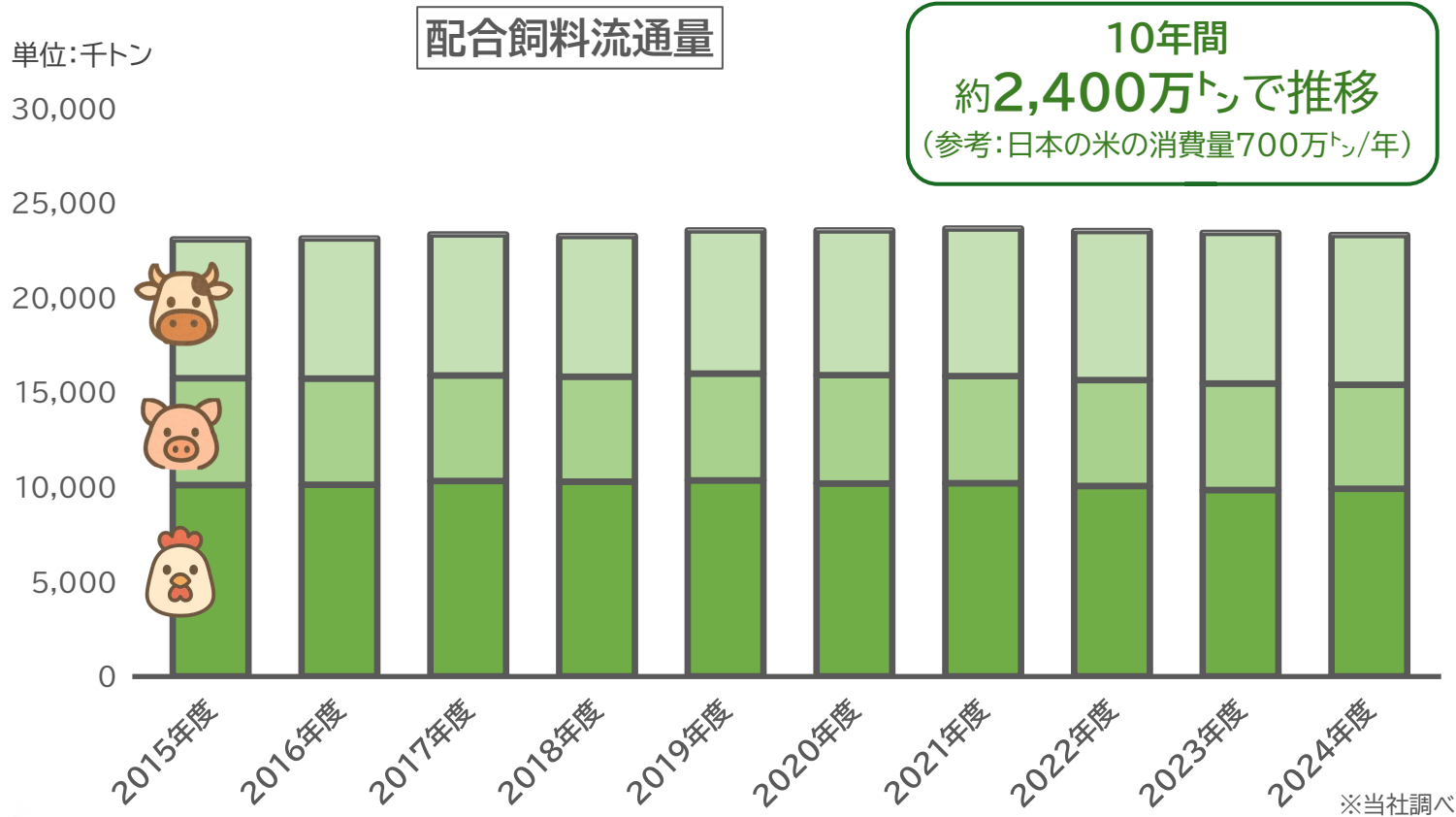


～ “飼料”と言っても形状は多種多様 ～

鶏、豚、牛を中心に配合飼料の製造販売を行う当社のコア事業です
家畜の種類や発育ステージに応じて、最適な栄養バランスや形状で配合飼料を
提案し、畜産業の発展に寄与しております

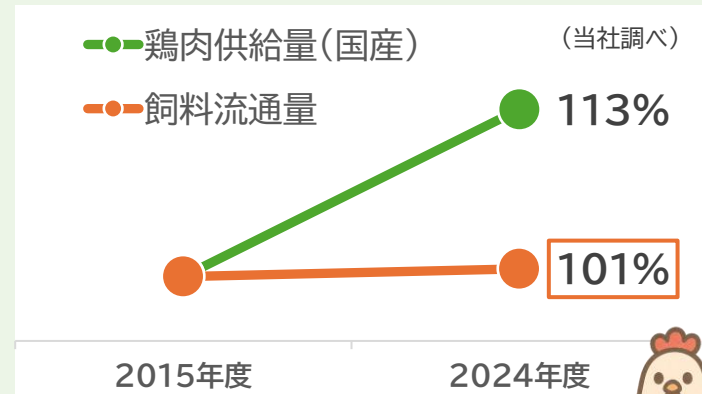
すべての家畜用配合飼料において業界トップクラスのシェアを誇ります。
配合飼料に留まらない、飼養や育種の技術も提供するトータルコーディネート
に強みを持っています

畜産物消費量は増加傾向も、配合飼料の性能向上等により飼料流通量は横ばいで推移しています



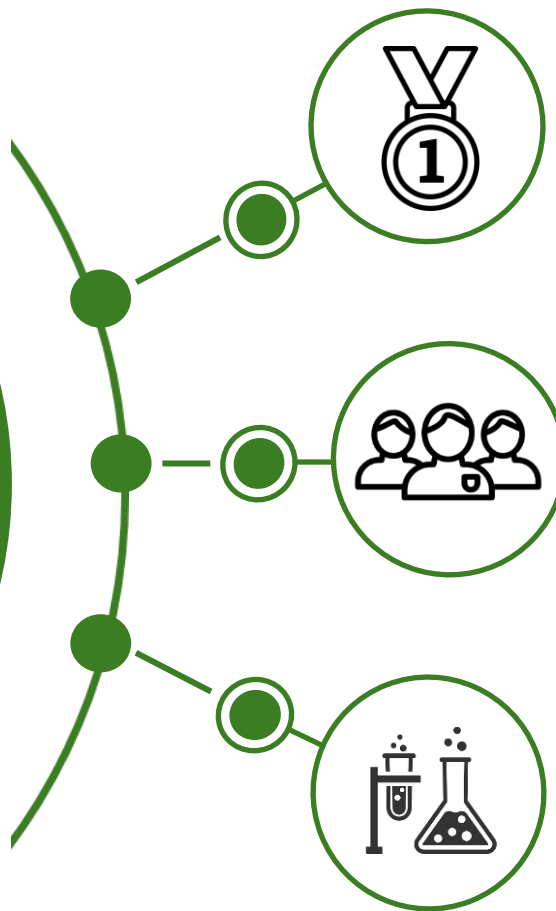
POINT 

配合飼料流通量横ばいの背景



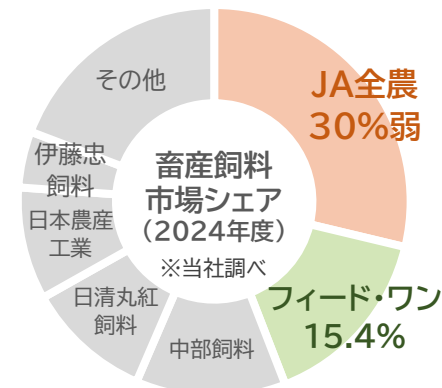
飼料の性能が上がり、生産効率が改善。
生産効率改善に向け、配合飼料の期待値や
ニーズは益々高まってきています





15%を超えるマーケットシェア

- ▶ 豚用飼料では業界1位
- ▶ 畜産飼料全体でも民間企業1位



Gr全体で150名を超える営業人員と13の製造拠点

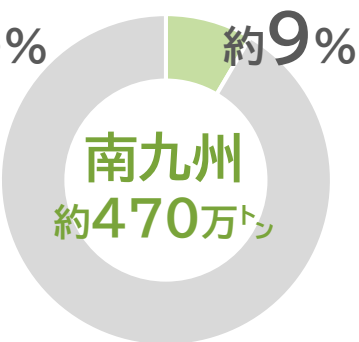
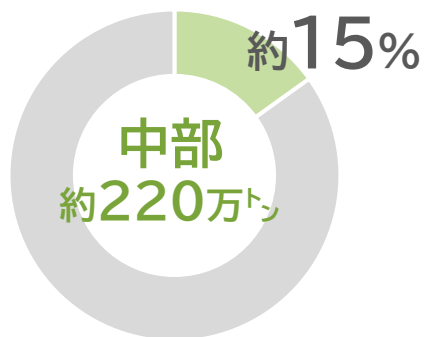
- ▶ 豊富な人員数により、畜種専任制で配置し専門性が高い
- ▶ 全国各地に工場を有し、飼料の安定供給に貢献

充実した研究体制と50名を越える研究開発人員

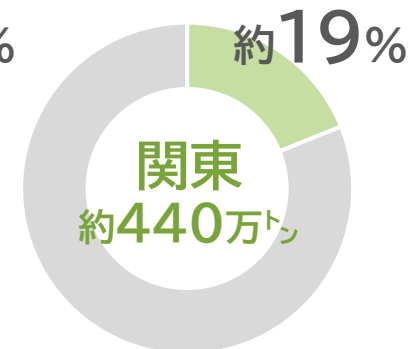
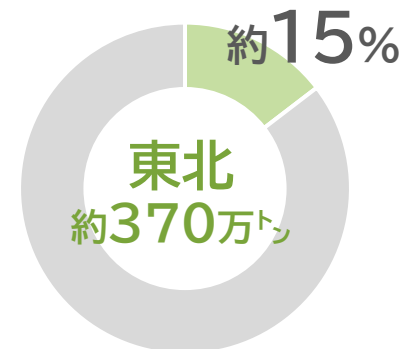
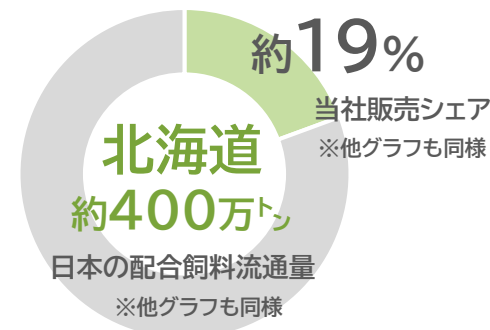
- ▶ 鶏・豚・牛それぞれの研究施設と専門性の高い研究開発人員
- ▶ 安心安全な製品を支える年間3万件を越える品質チェック体制
- ▶ provimi(カーギル子会社)やカンザス州立大学等との技術提携により最先端の情報を収集

畜産飼料事業の強み②

13の製造拠点と24の販売拠点により、日本の畜産業を支え続けています



- 工場
- 研究所
- 支店(営業拠点)
- 販売会社(子会社)
※各社の拠点も含む



工場 | 13
販売 | 支店8 + 販売会社(本支店)16

※当社調べ



最新技術を取り入れた製品や飼養技術を続々と上市し、競争優位性を高めています



『ファイブギアドロップ』

- ▶ 搾乳ロボット専用飼料
- ▶ 特許取得製品



『ルミノスクラッチ』

- ▶ 牛用人工乳
- ▶ 仔牛期の消化に寄与



『ワンアアップ肉牛育成』

- ▶ 消化管の健康をサポート
- ▶ ルーメン(第一胃)環境サポート
- ▶ 特許出願中

2016

2018

2021

2023

2024



『乳牛ゲノム解析サービス』開始

『生乳脂肪酸組成分析サービス』開始



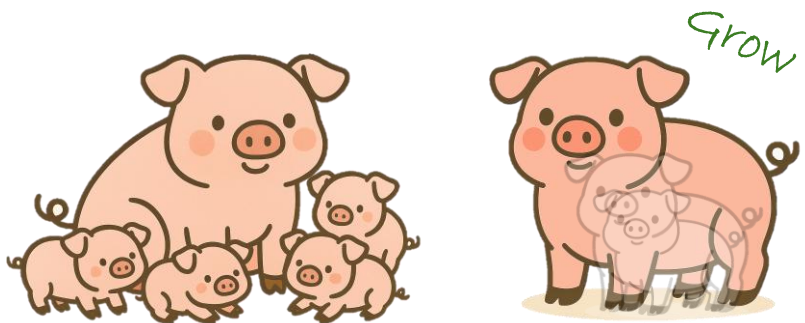
『ノリノリポーク』発売

- ▶ 薄脂対策肉豚用飼料
- ▶ 高い発育と背脂肪の「ノリ」を実現
- ▶ 特許出願中

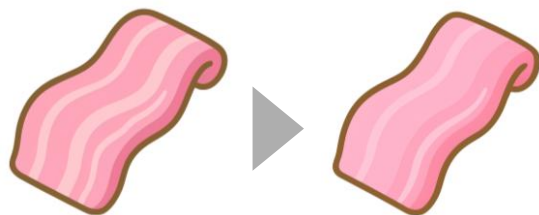


育種改良の進歩により新たに生じた課題を飼料の力で解決し、経営成績の改善に寄与しています

育種改良が進み、出産頭数が増加し、
成長効率も大きく改善しました



成長が早すぎるため脂のノリが追い付かず、
豚肉の脂身が少なくなってしまう事態に



肉の品質低下
↓
農家の収益悪化



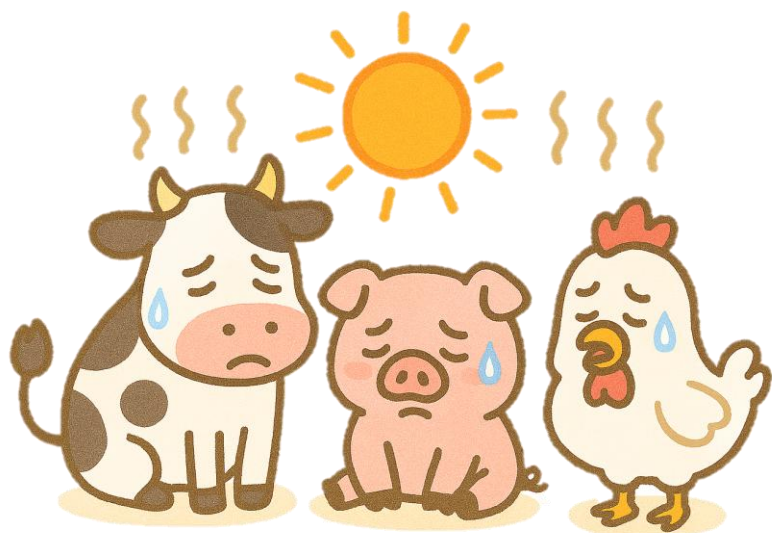
早く大きく育てても、肉の評価が伴わないと
農家の皆さまの経営成績が悪化してしまいます
「ノリノリポーク」は成長と肉の評価を両立させる
ことができる画期的な飼料です

暑熱は畜産業にも多大な影響を及ぼします。専用飼料で食の安定供給を支えます

繁殖能力
の低下

畜産物の
品質低下

疾病感染
リスク増加



暑熱は家畜の健康や畜産物の生産に影響

フィード・ワンの他社の先行く強み

01

全畜種に対応できる
製品ラインナップ

02

環境変化やニーズへの
対応力・対応速度

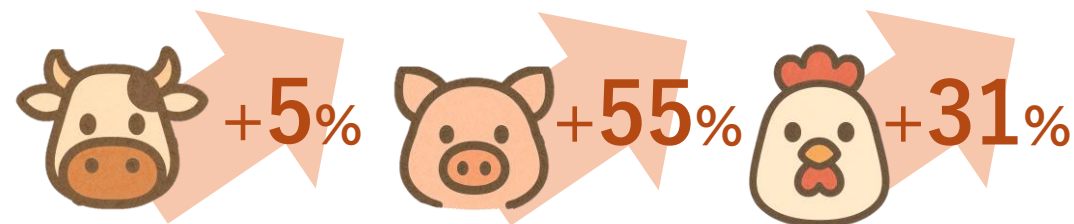
03

販売実績が裏付ける
信頼・安心感

暑熱の激化や製品リニューアルにより

2025年度は全畜種で**過去最高販売数量**を記録

※暑熱対策飼料として

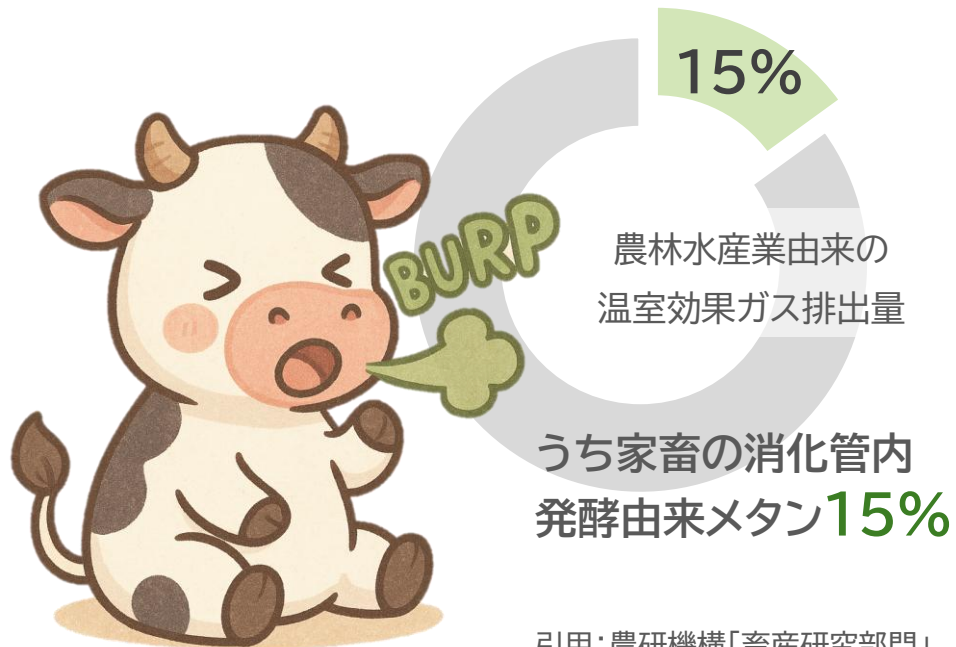


(% は2025年度中間期の前年同期比)



サステナブルな畜産業にむけ、「温室効果ガスの排出量低減」と「生産効率の改善」を実現します

日本の農林水産業からの温室効果ガス排出量は、国内の総排出量の**約4%**



フィード・ワンが実現する 環境負荷低減飼料開発への道のり

STEP 1 メタンの正確な測定 **済**

- ▶ 農場で正しく測定する方法が必要
- ▶ 専用測定装置を国内で初導入。測定技術を確立

STEP 2 メタン低減飼料の開発 **COMING SOON**

メタンを低減するだけでなく、メタンを生成するエネルギーを生乳や肉の生産に向け、生産効率化に寄与

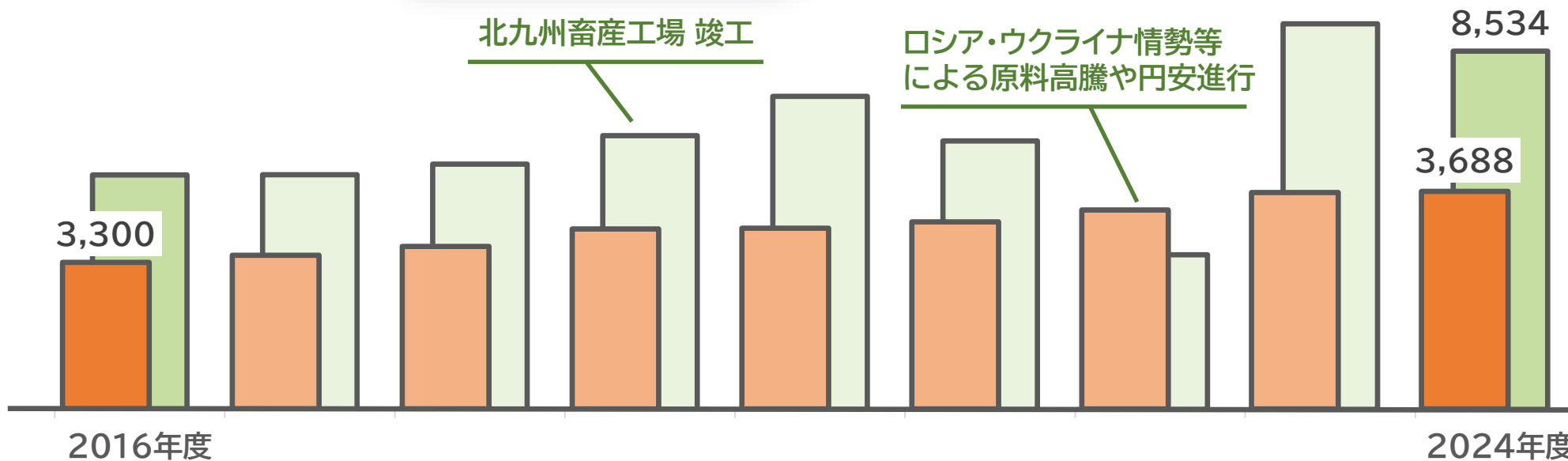
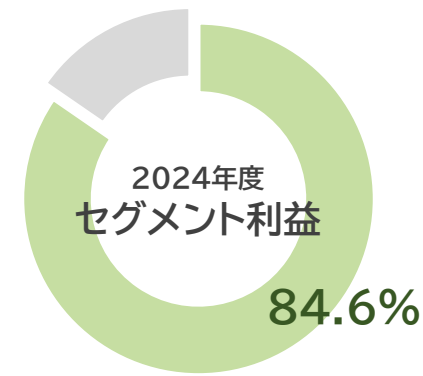
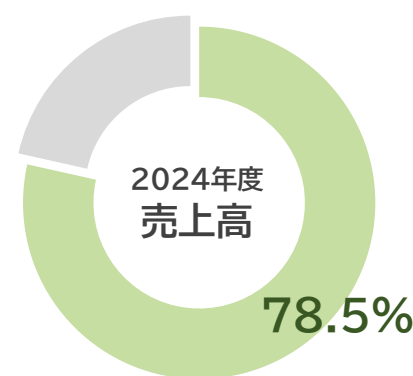
STEP 3 メタン低減飼料の普及



畜産飼料事業の業績推移

新たな価値を創出しつづけ、畜産飼料メーカーのリーディングカンパニーの立ち位置を確かなものに

■ セグメント利益(百万円)
■ 販売数量(千ト)



水産飼料事業



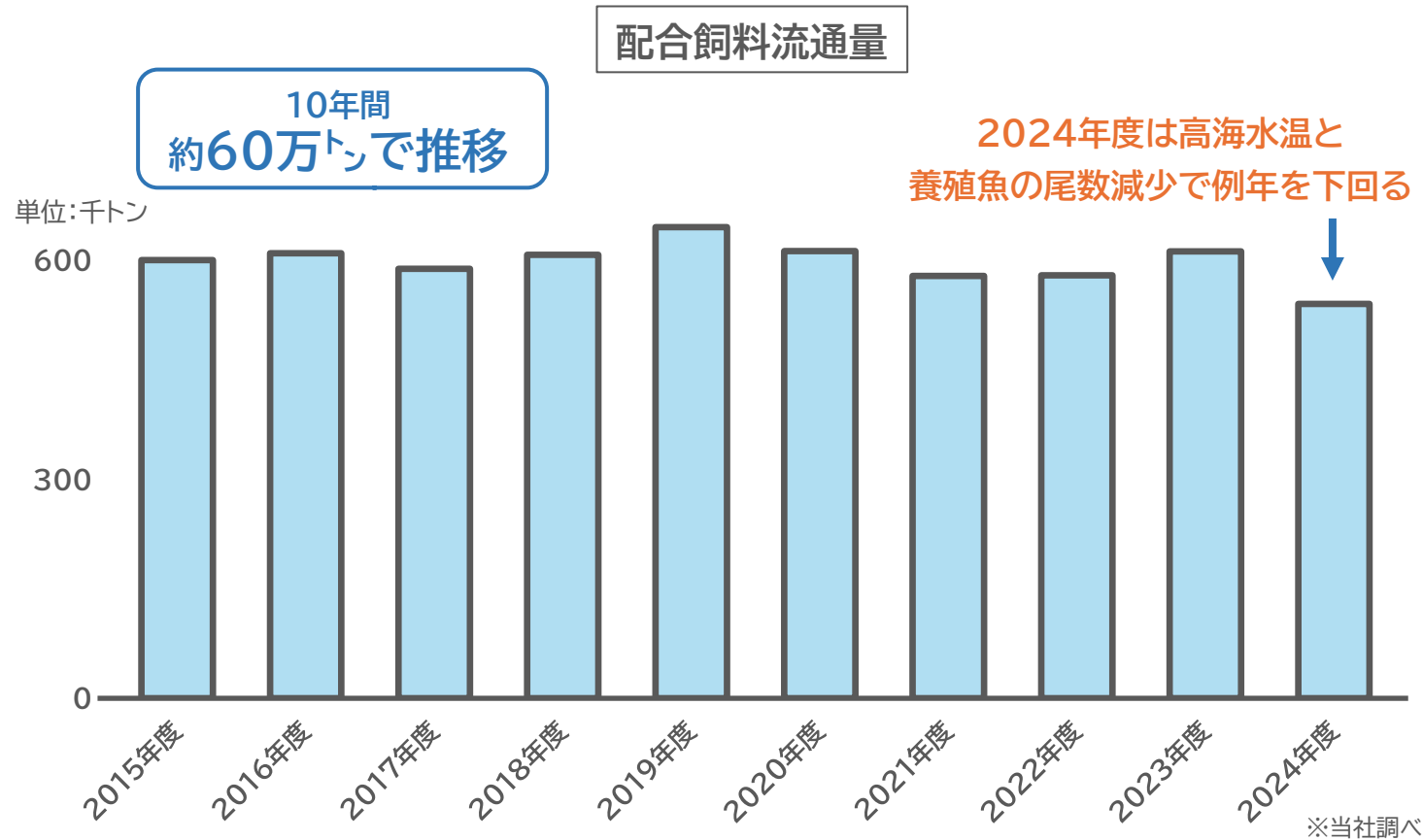
～ 養殖魚の口の大きさに合わせたサイズをラインナップ ～

養殖魚(マダイ・ブリ等)の配合飼料の製造販売を行っております

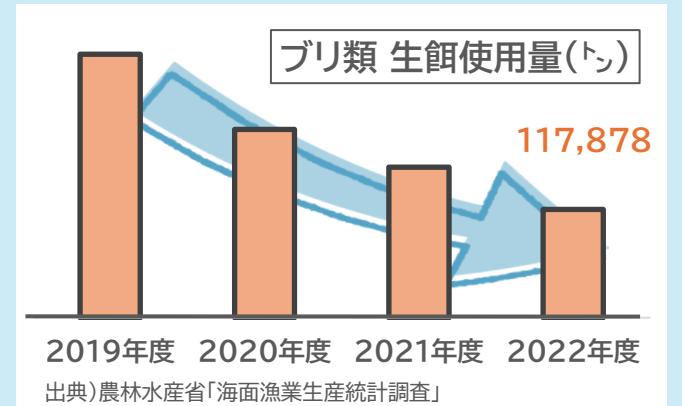
日本の食文化に欠かせない魚の多くは養殖されており、その餌は海洋資源の保護等の観点から配合飼料が主流となっています

世界的な食糧問題、資源量の減少及び世界での養殖生産量の増加を背景に、主原料である魚(魚粉)を使用しない**“無魚粉飼料”**の**パイオニア**的な存在となっています

回転すし人気等による養殖魚のニーズや、配合飼料の普及により流通量は横ばいで推移しています

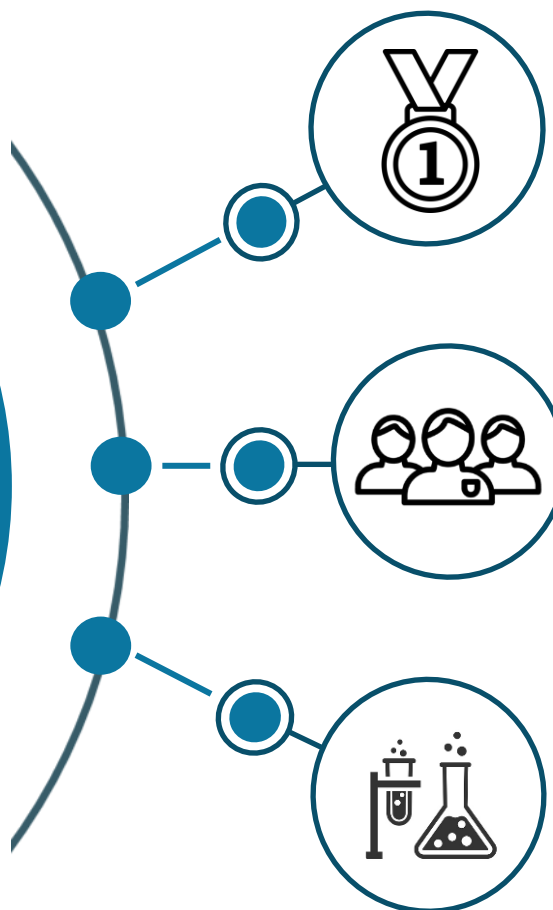


POINT 配合飼料流通量横ばいの背景



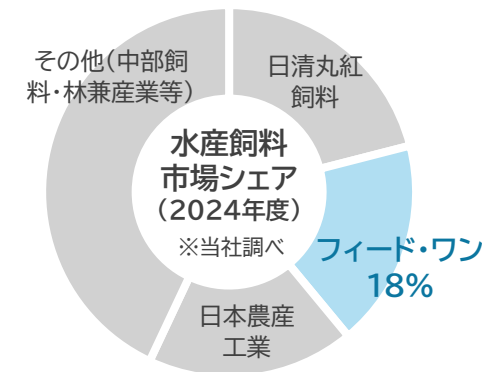
ブリ類等は生魚を餌としていた生産者が環境保全や生産効率を重視して、配合飼料に切り替えるケースが多くなっています





18%を超えるマーケットシェア

- ▶ **マダイ用飼料では業界1位**
- ▶ 水産飼料全体では業界2位



盤石な製造基盤と40名以上の豊富な営業人員

- ▶ 北九州に国内最大級の工場を有し、愛知県にも新工場建設中
- ▶ 養殖の主要マーケット(九州・四国)を中心に5つの販売拠点

サステナブルな養殖業を実現する研究開発力

- ▶ 無魚粉飼料のパイオニア(魚粉配合率の低さは業界1位)
- ▶ 昆虫タンパク等の新たな原料を積極的に採用&活用

政府は“みどりの食料システム戦略”として養殖魚の生産量の倍増計画を打ち出しています



2030年養殖生産目標 ※2019年対比

マダイ	11万トン(+5万トン)
ブリ類	21万トン(+10万トン)
配合飼料化率	100%



陸上養殖や沖合養殖の拡大、ウナギの完全養殖等でさらに需要は拡大

配合飼料需要**60万トン**が
大きく増加する可能性



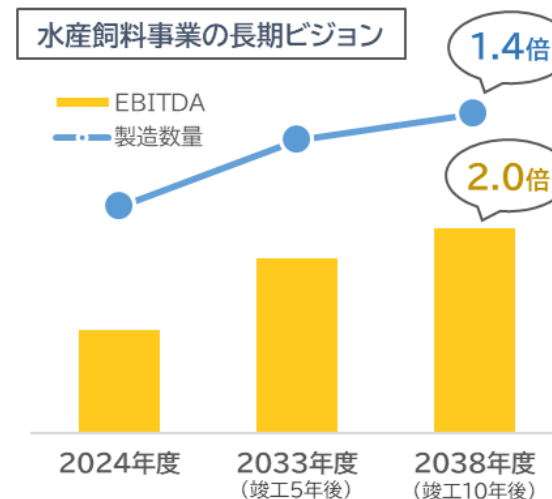
配合飼料メーカーの生産余力
老朽化による製造インフラ悪化



当社として過去最大金額規模の投資を決定。次世代養殖のパイオニアとして養殖業をけん引します



総額約**130**億円を投じ、愛知県に新工場を建設



新工場 4つの役割

研究開発型工場

製造能力拡大

製造効率化

立地の優位性



最新技術を取り入れた製品や飼養技術を続々と上市し、競争優位性を高めています



『まだいDPフォース』

- ▶ 低魚粉飼料の先駆け
- ▶ 統合後初となる自社製品



『補償成長』発表

- ▶ 革新的な給餌技法の確立
- ▶ 生産コスト削減に寄与

『ますEPサクシードZERO』

- ▶ マダイに次いで2つ目の無魚粉飼料
- ▶ マダイ用の評価が後押しし販売好調

2016

2020

2023

2024

知見を活かし
リニューアル



『まだいDPフォースONE』

- ▶ 『まだいDPフォース』をリニューアル
- ▶ 低魚粉飼料=フィード・ワン を確立

『まだいDPサステナZERO』

- ▶ 次世代養殖をけん引する無魚粉飼料
- ▶ 魚粉配合飼料と遜色ない成長を維持



代表製品紹介「まだいDPサステナZERO」

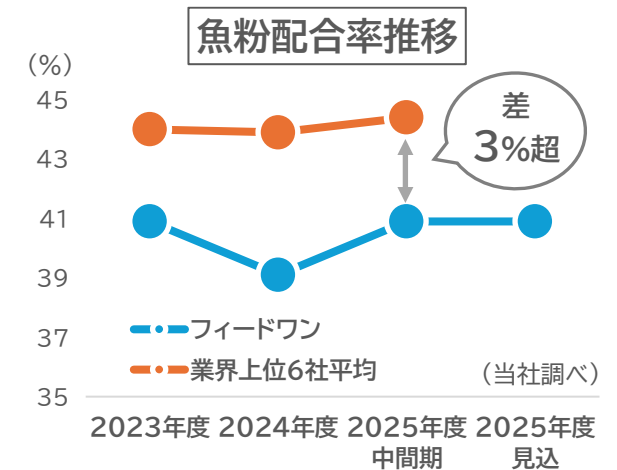
魚粉に依存するリスクをいち早く課題認識し、2023年に革新的な無魚粉飼料を上市しました

資源保護の観点や、世界的な人口増加から、
魚粉は供給制限や価格高騰のリスクが大きい



「養殖魚は魚粉を食べて育つもの」
という考えが根強く、飼料の評価は魚粉配合率に比例

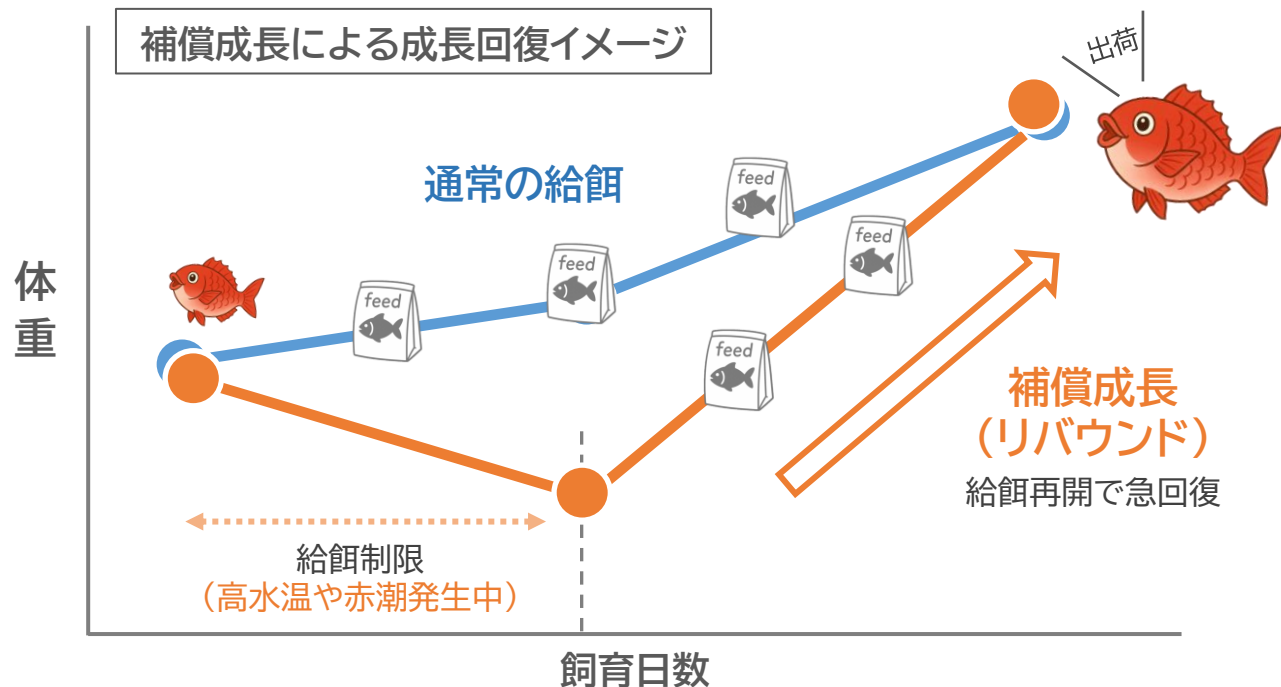
無魚粉飼料
まだいDPサステナZERO



通説を覆し、無魚粉飼料で従来製品とそん色のない成長
を実現。発売からわずか1年で**自社のマダイ用製品の
販売数量ナンバー1**になりました
水産飼料における**魚粉配合率の低さは業界1位**



あえて給餌を制限する「**補償成長**」技術を確立！サステナブルな養殖業の実現をけん引します



通常の給餌

春の産卵期や夏の高水温期等は成長性が劣り、飼料の効率が大幅に低下してしまいます

補償成長

一時的に給餌を制限することで、**ダイエット後のリバウンド**のような増体を期待するものです
飼養コストの抑制や、**環境負荷低減**に寄与します

？ 飼料会社が餌を控える提案をしていいのか？

独自の飼養技術の確立や、その専用製品を開発することで、競争優位性や他社移行の障壁を高めることで、マーケットシェアを拡大することができます

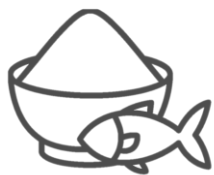


気候変動等で養殖環境が変化する中、次世代養殖を実現し美味しい魚を食卓に届け続けます

「次世代養殖の実現」を目指して

サステナビリティな養殖業にむけ4つの課題に取り組んでいます

フィード・ワンだけが実現できる次世代養殖への取組み



魚粉低減

- 資源枯渇による
- ▶供給不安
- ▶価格高騰不安



機能性原料

- 技術革新による
- ▶新たな価値創造
- ▶コストの削減



新形態飼料

- 新しい養殖形態
- ▶陸上養殖
- ▶沖合養殖



飼養技術

- 生産効率の追求
- ▶生産性改善
- ▶労働負荷低減

具体例紹介

魚粉代替に留まらない『**昆虫タンパク原料**』採用

昆虫タンパク原料に期待する機能性

魚粉代替

粘液増加

高海水温
対策

ストレス
低減

2024年7月出願特許 (新東亜交易(株)様と共同)

昆虫タンパクを含む飼料を与えると全ての対象魚種で体表粘液が増加することを確認

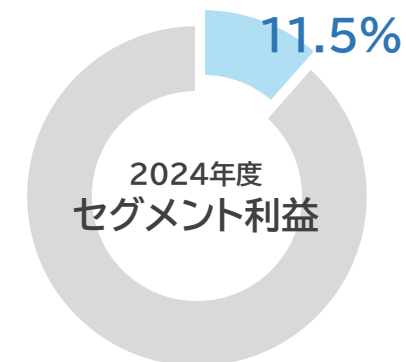
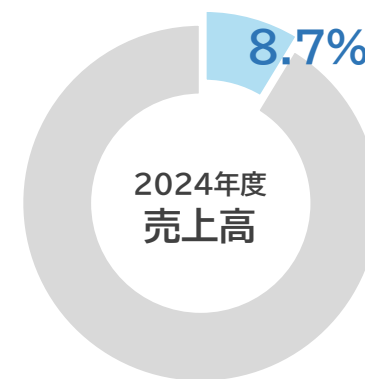
マダイ +129% ブリ +114%
カンパチ +152% シマアジ +129%

保護機能向上で体表からの細菌等の侵入抑制に寄与



水産飼料事業の業績推移

北九州水産工場の安定稼働後は収益性が高まり、2024年度は過去最高益となりました

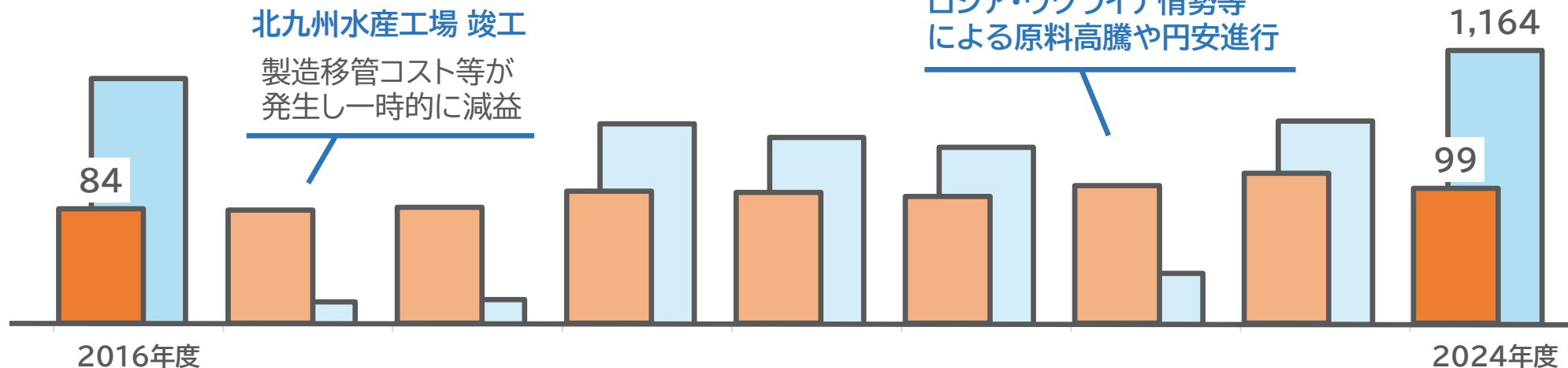


■ セグメント利益(百万円)
■ 販売数量(千ト)



北九州水産工場 竣工
製造移管コスト等が
発生し一時的に減益

ロシア・ウクライナ情勢等
による原料高騰や円安進行



食品事業



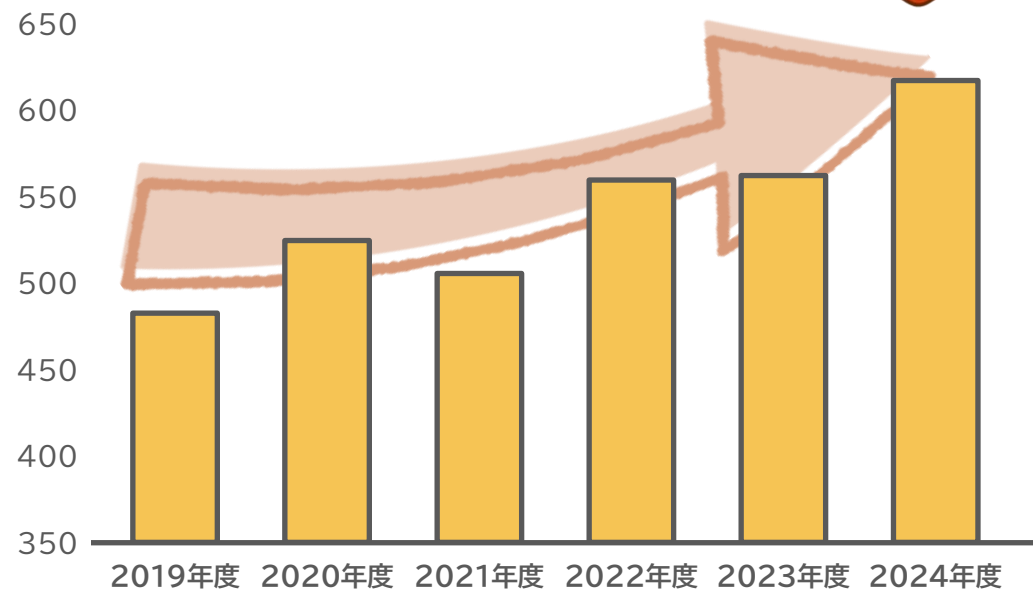
豚肉と卵の仕入・加工・販売を行っております

食品を構成する飼料・生産・加工・流通の各分野において、飼料メーカーならではのノウハウやネットワークを持ち、それらの強みを活かし、生産からお客様に商品をお届けするまでのサプライチェーンのトータル・コーディネートを実現し、多様な価値を実現しています

暑熱や家畜疾病の蔓延等により畜産物相場は上昇傾向にあります

豚枝肉相場推移

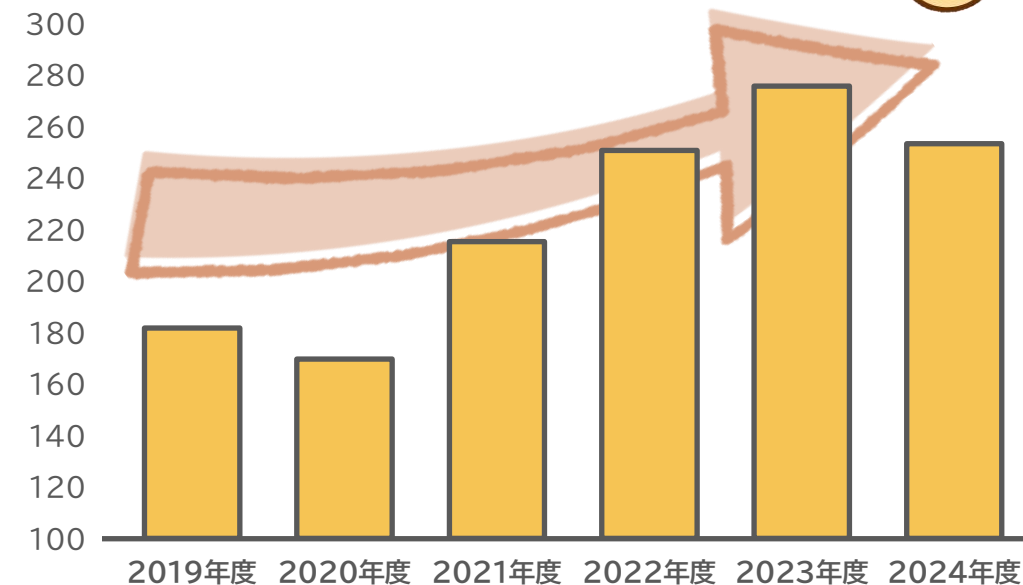
単位:円/kg



出典:農林水産省 食肉流通統計

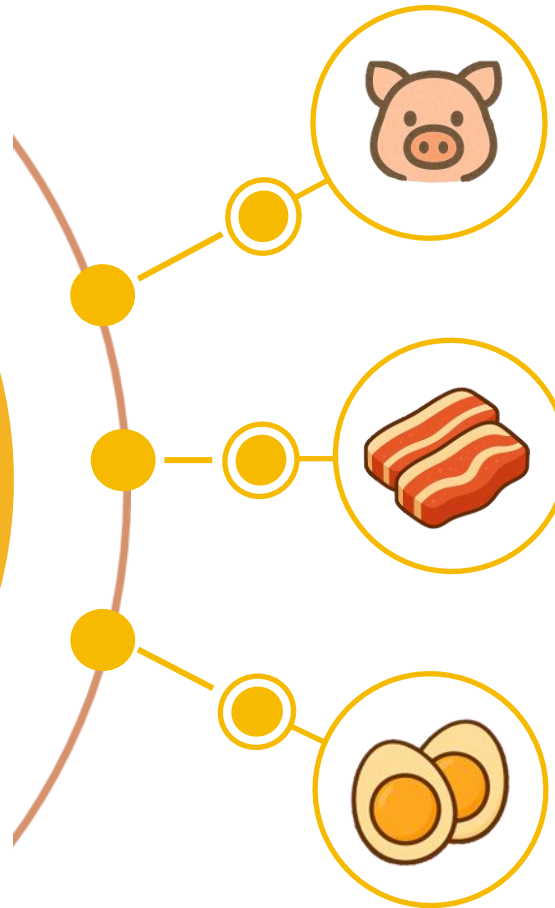
鶏卵相場推移

単位:円/kg



出典:JA全農たまご(株)調べ





飼料メーカーならではのシナジー効果を創出

- ▶ 消費者ニーズを捉え、飼料事業に共有することでいち早く課題に対応する飼料を開発

サプライヤーとしての地位を確立

- ▶ 飼料メーカーのバリューチェーンの強みを活かし、他社にない確かなトレーサビリティでバイヤーからの高い信頼を獲得

歴史あるコンシューマー製品でブランド力強化

- ▶ マジックパール(株)の味付ゆでたまご「マジックパール」は昭和55年に発売し、過去にはモンドセレクション銀賞を受賞



食品事業のバリューチェーン

フィード・ワンは流通の川上から携わることで、食の安心安全に大きな信頼を寄せられています



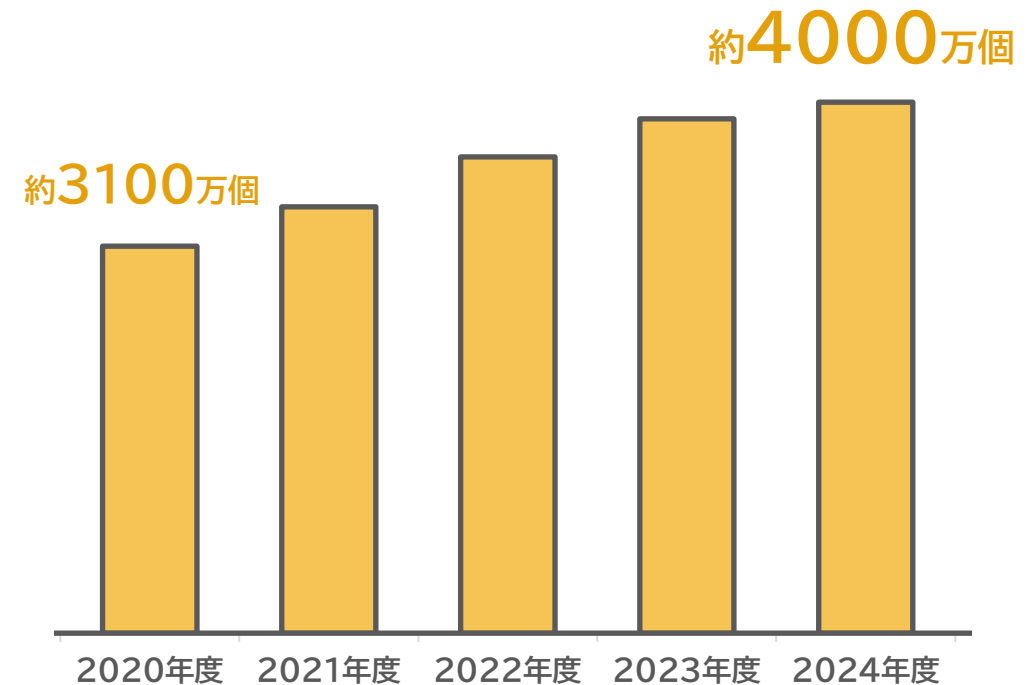
店頭でお見掛けした際は是非ご賞味ください

味付ゆでたまご「マジックパール」

- 割ってそのまま塩要らずで食べられる味付ゆでたまご
- 常温で保存が可能で2週間程度の賞味期限
- 駅の売店を中心にスーパーやサービスエリアで販売
- ゆでたまごは[作る時代]から[買う時代]へと変遷し、
2025年3月に新工場が稼働開始



マジックパール販売数量



CONTENTS

01 会社概要

02 事業紹介

03 マーケットの展望と長期ビジョン

04 人的資本投資／地域貢献活動

05 株主還元方針

従業員こそが会社の成長に最も重要なファクターと捉え、人材への投資を惜しみません

平均年収



764.7万円

(非管理職向けの3年間単純合計賃上率19.7%)

教育研修費



59,681円

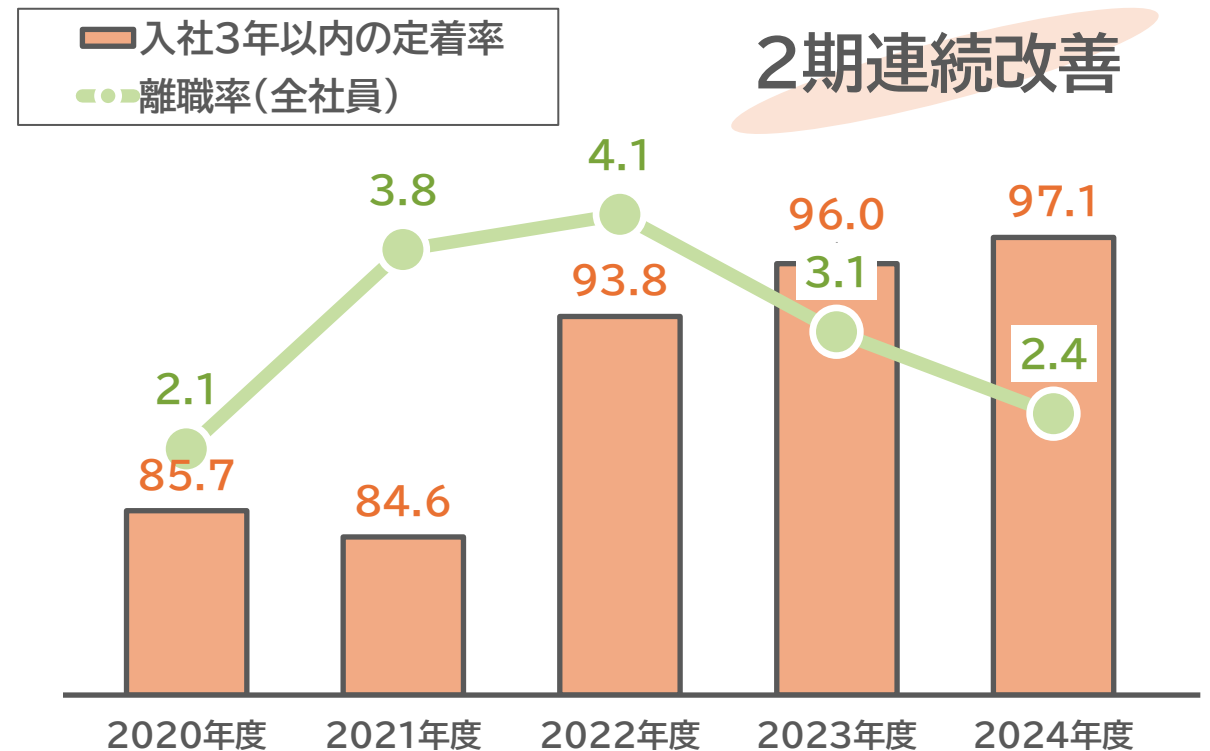
(上場企業平均対比+72.5%)

女性社員比率



20.8%

(2015年度対比: +5.3pt)



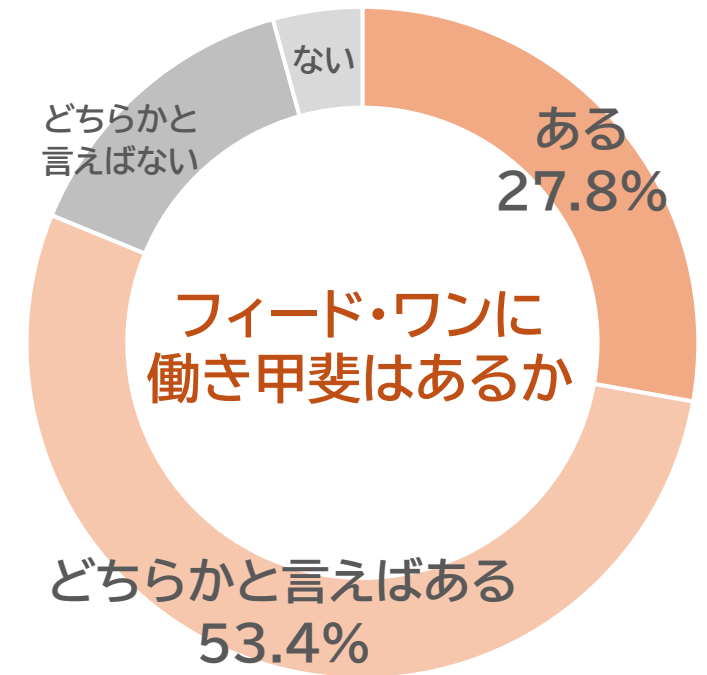
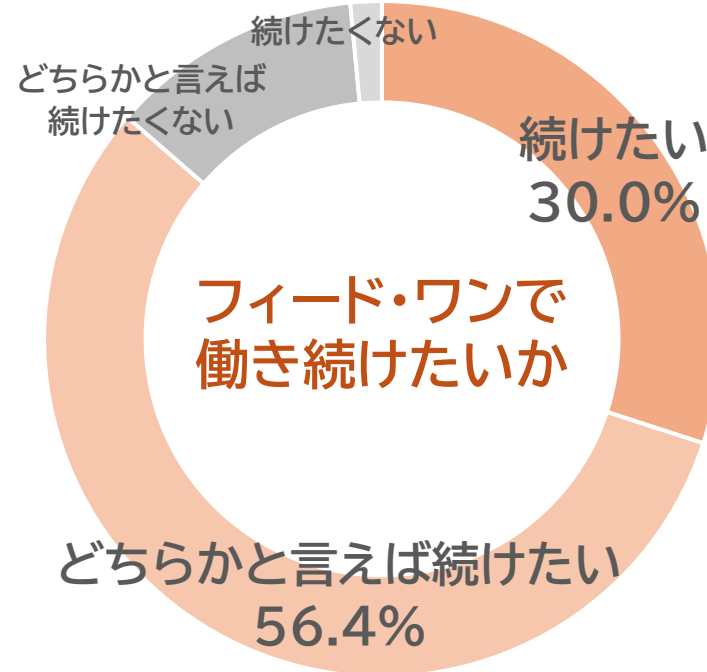
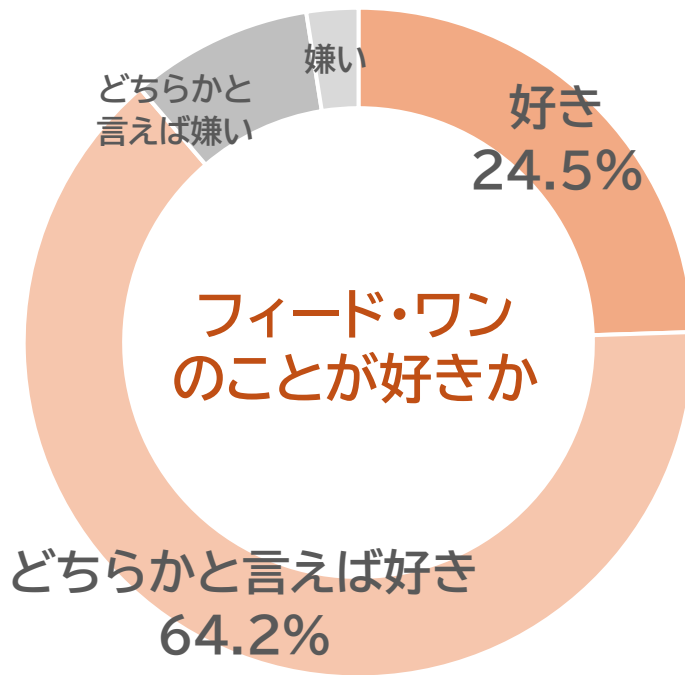
注① それぞれ2024年度結果

注② いずれも集計範囲はフィード・ワン単体



社員とのエンゲージメント

高いエンゲージメントが当社の価値創造の源泉となっています



※ それぞれ2024年度調査結果
※ いずれも集計範囲はフィード・ワン単体



食に携わる企業として、従業員の健康の維持は最重要課題と認識しています

健康経営の指標として11のKPIを設定しています

2025年には、社員の健康を経営的な視点で捉えた取り組みが認められ、「健康経営優良法人2025(大規模法人部門ホワイト500)」に認定されました

飼料メーカーならではの取り組み

牛乳専用の冷蔵庫を常設しており、従業員は自由に飲むことができる牛乳の消費拡大推進にも寄与



2025

健康経営優良法人

KENKO Investment for Health

大規模法人部門

ホワイト500



イベントへの協賛や中高生を対象にした食育講習会等も積極的に行っています

マラソンへの協賛



地域活性化への貢献として地域イベントを継続的に支援しています
社員もボランティアとして参加し、地域との交流を深めています

子ども食堂等への食品寄付



横浜のフードバンク・子ども食堂 合計6施設へロングライフ牛乳(常温保管可能な牛乳)を寄付しています
孤食等の社会課題へ貢献しています

食育講習会の開催



飼料メーカーの視点で『畜水産物』についての講習会を開催しています。講習会後は当社製品で育った畜水産物で調理実習も行っています

横浜スタジアム 内野フェンス広告



横浜本社付近 横浜新都市ビル内通路



その他、駅看板も多数掲出しております

是非、お出かけの際にフィード・ワンの看板を探してみてください



CONTENTS

- 01 会社概要
- 02 事業紹介
- 03 マーケットの展望と長期ビジョン
- 04 人的資本投資／地域貢献活動
- 05 株主還元方針**

株主還元方針と配当推移

設立以降10年間一度も減配なし。2025年度より配当方針を見直し株主還元を強化しました

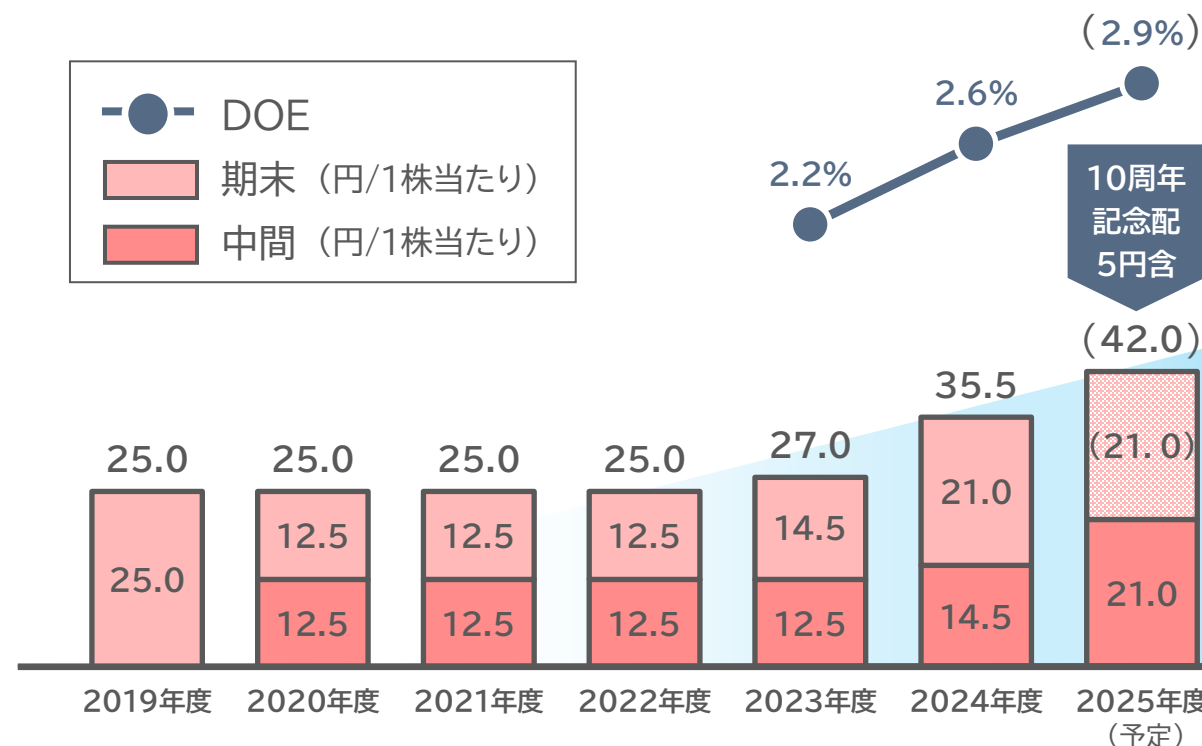
配当方針の変更 (2025年5月8日開示)

Before

長期的発展の礎となる財務体質強化のための内部留保の充実と**安定配当**を基本として、**連結配当性向25%以上**を目標といたします

After

長期的発展の礎となる財務体質強化のための内部留保の充実と**累進配当**を基本として、**連結株主資本配当率(DOE)3%**を目標といたします

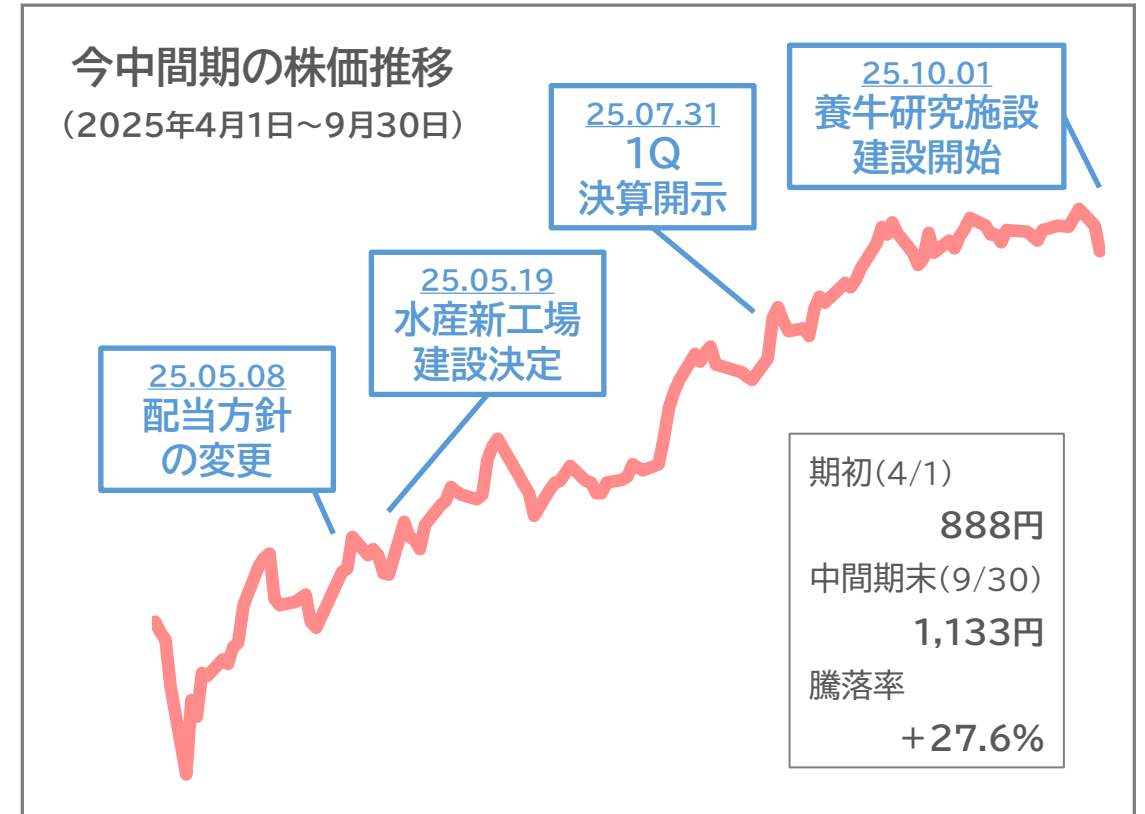
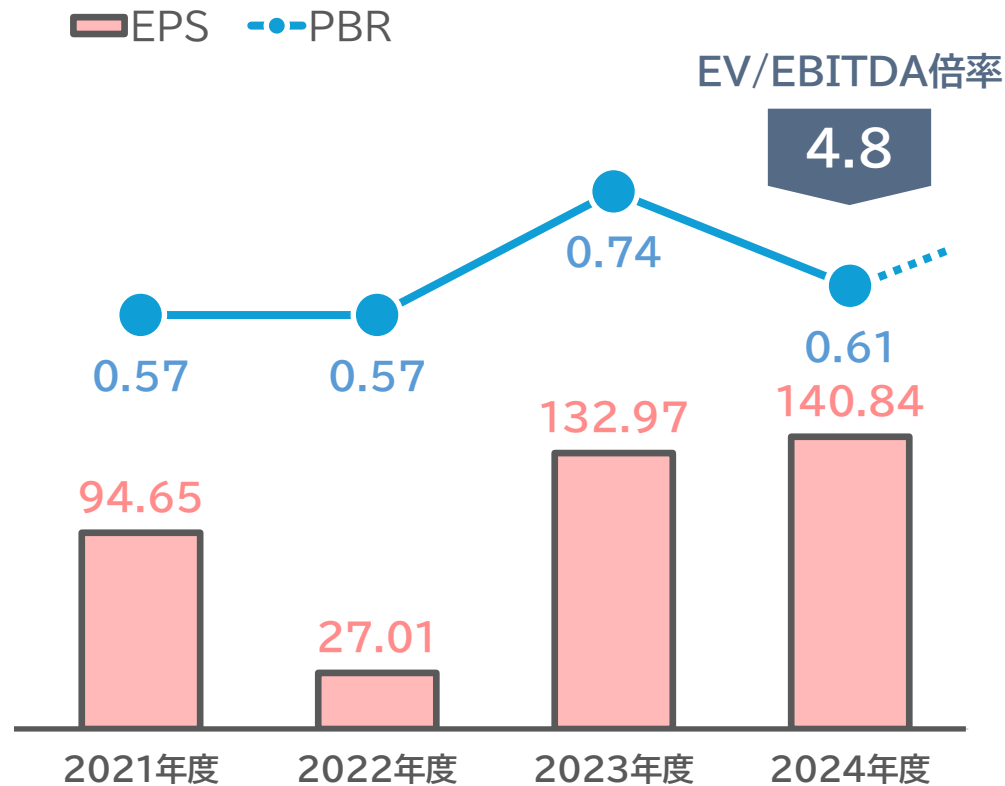


※2020年10月に5:1の株式併合を行っているため、2019年度と2020年度は株式併合後に換算した金額となっております



株価とPBR推移

株価指標(EPSやPBR)は割安傾向にあるものの株価は堅調に推移しております



参考)2025年12月4日終値:1,039円

EPS : 1株当たり純利益
 PBR : 株価純資産倍率=期末株価/1株あたり純資産
 E V : 企業全体の実質的な価値(株式時価総額 + 有利子負債 - 現預金等)



財務の健全性を維持しつつ、営業キャッシュフローを原資に積極的な成長投資を行ってまいります

BSマネジメント

- 収益性の強化と在庫管理等によるCCC(※①)改善
- 不稼働資産を見直し、筋肉質なBSを実現
- CMS(※②)導入によりグループ資金を効率化

※①キャッシュ・コンバージョンサイクル=仕入債務から売上債権回収までの日数

※②キャッシュマネジメントシステム=グループ資金を一元管理できるシステム

2025年度/中間期BS

資産の部

現預金	100億円
その他流動資産	650億円
固定資産	503億円

負債の部

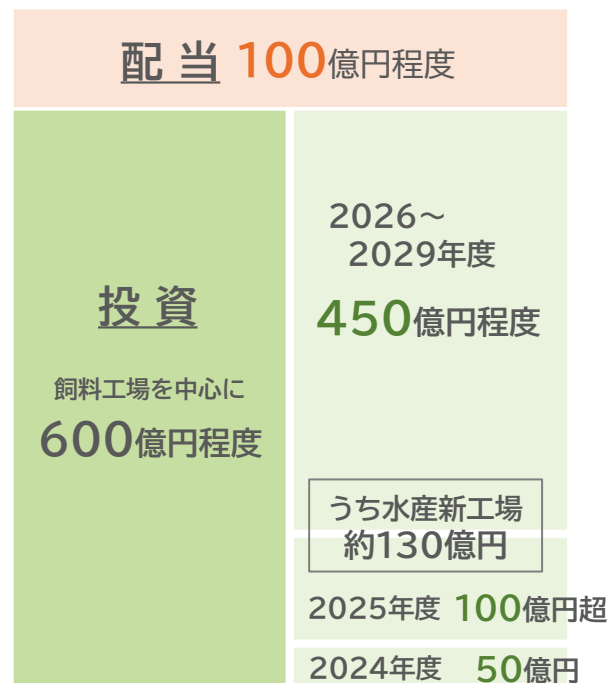
有利子負債	264億円
その他負債	404億円
純資産	585億円

自己資本比率 **46.0%** / ネットDEレシオ(※③) **0.28倍**

※③ネットDEレシオ=(有利子負債-現預金)/自己資本

キャッシュアロケーション(2024~2029年度)

Cash Out



Cash In



2025年度 通期業績予想

■ 期初予想から変更ありません。中期経営計画の1年前倒しの達成を見込んでいます

(百万円,%)

	2025年度				
	期初予想 (5月8日開示)	中間期		直近予想 (10月31日開示)	期初予想比
		実績	進捗率		
売上高	311,000	142,344	45.8%	311,000	—
営業利益	6,800	3,257	47.9%	6,800	—
経常利益	7,000	3,714	53.1%	7,000	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,200	2,873	55.3%	5,200	—





ご清聴ありがとうございました。今日のお食事で
『この卵って、このお肉って、この牛乳って、この魚って、
フィード・ワンの飼料で育ったのかもしれないな』
と思い出していただけると大変嬉しいです



ご参考
統合報告書
2025

